

▽▽▽ 環境報告書 ▽▽▽

2022



三重県立四日市農芸高等学校

環境美化委員会

目 次

1. 環境マネジメントシステムの改善と継続	・・・	1
～ISO14001の20年間の取組と今後の展望～		
2. ISO 14001 20年の歩み	・・・	4
3. 四日市農芸高等学校 環境理念・環境方針	・・・	5
4. 2022年度 環境目標	・・・	6
5. 環境教育の推進		
(1) 環境教育プログラム	・・・	7
(2) 家庭との連携	・・・	7
(3) 地域との連携	・・・	7
(4) 企業との連携	・・・	8
(5) 大学等との連携	・・・	8
(6) 環境週間	・・・	8
(7) 環境月間	・・・	8
* 2022 環境教育実施報告書一覧表	・・・	9
(8) 防災教育の実施	・・・	22
6. 環境コミュニケーションの推進	・・・	23
7. 環境汚染の予防と環境保護の取り組みについて	・・・	24
8. 2022年度 環境目標 達成度一覧 (まとめ)	・・・	27
学校教育アンケート調査の結果	・・・	28

環境マネジメントシステムの改善と継続

～ISO14001の20年間の取組と今後の展望～

三重県立四日市農芸高等学校

校長 中田 直人

1 主題設定の理由

四日市農芸高等学校は四日市市南部の丘の上であり、伊勢平野・伊勢湾を見下ろし、晴れた日は遠く知多半島、セントレアを眺望できる、四季緑に囲まれた閑静な環境である。教育理念として、共通教科並びに専門教科を通じた教育活動の充実に努め、専門技術者（スペシャリスト）や地域産業を担う人材を育成することを掲げている北勢地区唯一の農業と家庭の専門高校である。

私は歴代の校長と同様に、美しく素晴らしい地球環境を後世に引き継ぎ守っていくために、日常の教育活動の中に導入した環境教育を充実させ、心豊かな人間性を育み、地域社会に貢献する人材を育成する学校を目指している。そして、生徒の環境問題への関心を高め、自然や環境を尊重する態度や能力を養い、積極的な環境保護に取り組むことのできる人材を育成することを教育方針の一つとしている。そのため「環境マネジメントシステム」を構築し、実行することを宣言した。

その大きな原動力となっているのは、平成14年にISO14001を認証取得し、現在まで20年間継続している取組であった。

しかしながら、認証継続するための費用、担当教員の負担、生徒の関心度の低下、認証することだけが目的になっていないか等、様々な課題も浮かび上がってきた。

そこで、ISO14001の取組を振り返るとともに、今後の本校の環境教育の展望について考察していきたい。

2 研究のねらい

本研究のねらいは本校の環境理念（先述の宣言）及び環境方針（1. 環境教育を推進します。2. 環境汚染の予防と環境保護に努めます。3. 環境マネジメントシステムの継続的な改善に努め、開かれた学校づくりを推進します。）に則り取組を進めていることを確認したい。そして、今後の本校における環境マネジメン

トシステムの改善と継続について述べたい。

3 本校の取組

(1) ISO14001 認証取得の歩み

本校のISO14001は平成14年11月に全国の農業高校で初めて認証取得した。その後、全教職員で環境マネジメントシステムの維持・改善を継続し、学校教育の中に環境活動、地域とのコミュニケーションを積極的に取り入れた環境教育を展開している。令和3年9月にサーベイランス審査を受けて、審査機関MSAより、1年間の認証の維持が承認された。



(2) 環境目標

【環境教育の推進】

1 環境教育を通して生徒に「想像力」「行動力」「理解力」の3つの力を付ける。

- ① 各教科での環境教育
- ② 環境週間
- ③ 環境月間
- ④ 地域とのコミュニケーション活動

【環境汚染の予防と環境保護】

2 節電・節水の実行及び啓発活動を行う。
3 紙使用量の減量化と分別処理による紙の再利用化を推進する。

【開かれた学校】

4 環境意識の向上と環境コミュニケーション活動を推進する。

- ① 教職員研修の実施
- ② 校内外への環境コミュニケーション活動の推進
- ③ 環境報告書の発行

(3)環境教育の推進

1 家庭との連携

「学校ホームページ」を通して、学校行事、生徒会の環境活動や各学科・コースで実施している環境教育・環境活動（地域交流等）を紹介している。

2 地域との連携

① 文化祭（農芸祭）

本校の教育活動、ISO環境活動についての取組の写真を展示し、保護者等に啓発した。

② 園芸デザインコース

- ・NPO法人と多度のイヌナシ自生地の保全活動に参加した。
- ・金生水沼沢植物群落の保全活動に協力した。



- ・四日市市エコパートナーとして、河原田地区内のフィールドワークによる環境事業に参加した。

③ 造園技術コース

生徒が「中学生に造園の良さを伝え隊活動」と題して、中学校の樹木選定、環境整備を実施した。

④ 自然環境コース

国土交通省三重河川国道事務所主催の「水生生物調査」で生徒が小学生に河川環境について教えた。



⑤ 食品化学コース

福祉施設において環境に配慮した食品の製造・販売の交流をした。

⑥ 生活文化科（全員）

地元の河原田駅や神社等の清掃活動を行った。（例年は地域の方と一緒に行くが、コロナ禍のため生徒のみ）



3 企業・大学等との連携

① 自然環境コース

- ・四日市市少年自然の家で里山保全実習を実施した。
- ・四日市大学主催の「未来へつなぐSDGs～地域の自然・里山保全～」に参加し、生徒が里山保全活動について発表した。

② 生産技術コース

御幸毛織株式会社と羊毛の廃材を堆肥化する研究を継続して行っている。

4 環境週間（令和3年6月7日～6月11日）

- ① 生徒環境委員会による、ゴミの分別状況、日常点検を実施した。
- ② 体育祭終了後に清掃確認を行った。
- ③ 学校環境デーはコロナ禍のため中止にした。

5 環境月間（令和3年10月21日～11月19日）

- ① 生徒環境委員による、ゴミの分別状況、日常点検を実施した。
- ② 節電・節水・美化の啓発ポスターを作成した。
- ③ 環境月間を中心に各教科（すべての教員）において、環境に視点を置いた授業を行い、報告書を作成し、生徒に付けたい力を確認した。



(例) 国語

テーマ：自分の身の周りの環境を意識すること
内容：古典の有名な題材に描かれている自然環境などから環境に関することを学ぶ

教科	名 前	【テーマ】教育内容	想像力		行動力		理解力	
			思いやり	イメージ	自主性	ムダなく	人のため	ISO
国語	佐々木悠	教育テーマ『自分の身の周りの環境を意識すること』 【教育内容】古典の題材を通して、過去の日本の風景に触れ、現在の違いを認識する ①古典の有名な題材に描かれている自然環境などから環境に関することを学ぶ。 ②現在の暮らしと過去の暮らしについて考え、現在の自分の暮らしを考える。 ③意見の発表を行い、環境について同年代の考えに触れる。	●	●	●	●	●	●
	新庄美都代	教育テーマ『ゴミの量に配慮した企画づくり』 【教育内容】 環境祭の企画を考える際に、なるべくゴミが出ず環境に優しい企画を考え、階段アートを選択した。 制作中も他のグループと材料や道具をシェアしたり、下敷きの紙を使い回したりするなど、ゴミの削減に取り組んだ。			●	●	●	
	矢吹奏隆	教育テーマ『小説や評論文を通して、自分を見つめ相手を理解する。』 【教育内容】 『新編現代文 東京書籍』に記載されている小説や評論文を通して、環境教育を進めていく上で必要となる「相手を思いやる気持ち」を理解させ、「未来をイメージして今すべきことを考える力」を身につけることを目標とした。 まず、小説「山椒魚」の登場人物である「山椒魚」や「蛙」、「メダカ」に着目し、それぞれの意図からどのような心情を読み取れるかを生徒に考えさせた。そして、それぞれの心情に対して、生徒自身はどう考えるのかについてまとめた。（共感できるかできないか、そのような心情を持つ相手に対して自分がどのように振るるか、など。） つぎに、「最初のペンダ」という評論文を通して、読解することの大切さや、未来の自分の生き方について考えさせた。「感情の技術を磨く」や「未知の世界へジャンプする」という印象的な言葉によって、生徒たちに「物事の本質を見抜ける」体験を共有した。	●	●	●	●	●	●

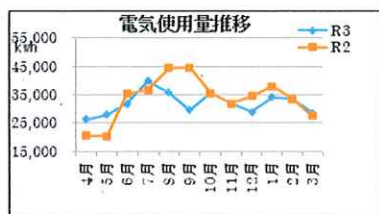
④ 図書だより

で、全校生徒に啓発するとともにホームページを通して保護者にも周知した。



6 環境汚染の予防と環境保護の取組

校舎と鶏舎の電気使用量の合計を職員に毎月示し、節電啓発を行っている。



令和2年度に比べ、令和3年度は削減した。同様に水道使用量も削減するよう呼び掛けている。

紙使用量の減量化等はある程度定着してきている。

4 成果と課題

本校では様々な場面で環境教育を進めており、一定の成果は挙げていると感じていた。しかし、生徒がどの程度理解しているかという成果指標がなかったため、アンケートを実施することとした。

アンケート結果 (令和3年度末)

Q. 環境問題への関心が高まり、環境保護への気持ちがある

	1.そう思う	2.ややそう思う	1.2.合計
1年生	45.5%	48.1%	93.6%
2年生	31.2%	56.7%	87.9%
3年生	40.4%	50.9%	91.3%

Q. 本校は、ISO14001の取組みができています

	1.そう思う	2.ややそう思う	1.2.合計
1年生	38.1%	54.5%	92.6%
2年生	38.8%	54.1%	92.9%
3年生	40.9%	53.9%	94.8%

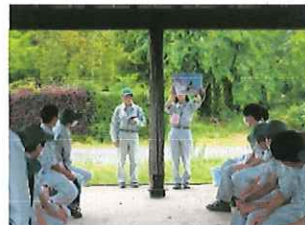
この結果より、ほぼ9割の生徒が理解あると実証されたことになる。(2年生はコロナ禍のため、体験活動が制約されたことでやや低いのでは。)しかし、各学年、本当に環境教育で付けたい力が備わったかは疑問である。20年間環境マネジメントシステムを継続する中で、形としては整えられてきたが、生徒自らが想像し、行動し、理解するためにはまだ工夫が必要である。

また、ISO14001の認証継続するためには毎年数十万円の審査費用が掛かり、なおかつ慣れた教員しか事務作業はできず、その教員も本年度定年退職を迎える。

5 今後の展望

そのような中、20年間を区切りとしてISO14001の認証は返上することとなった。しかし、構築された環境マネジメントシステムは維持していくこととした。とりわけ、重要審査項目であった「法令順守評価記録(試薬・農薬管理等)」「内部監査」「環境報告書の発行」は全教職員が協力して取り組んでいかなければならないと考える。さらに授業改善も必要であり、そのためにも教職員研修は継続していく。

本年度の新たな取組として環境造園科で環境教育プログラムである「プロジェクト・ワイルド」を取り入れた学習を始めた。野生生物になりきる模擬体験を通し、「自然を大切に」と理解するだけでなく「自然や環境のために行動できる人」を育成することを目的としている。そして、ファシリテーターとして生徒が環境学習の指導者になる力を付けることができる内容である。



また、4年前から本校では米のGAP活動に取り組んでいる。GAPとは農業生産活動において環境保全等の評価を受け、持続的改善活動を行うことである。



外部審査委員による書類審査の後、水田、もみ乾燥室、燃料倉庫、肥料・農薬保管庫の調査があり、生徒が説明し、質問に対して答えなければならない。この活動で農業の視点から環境汚染等の問題点を深く考えることができるようになる。

自然環境コースの生徒が小学生に河川環境について教える取組のアンケート調査では、93%の生徒が「教えることによって、知識・技術が高まった。」と回答している。

また、家庭学科の生徒全員が加盟している学校家庭クラブ活動の一つに奉仕の精神がある。この精神に則り、環境美化活動も継続していかなければならない。

このように農業・家庭科教育から環境教育へアプローチをすることや、今まで取り組んできたことを改めて環境の視点に置き換えていくことで、負担なく環境マネジメントの改善と継続ができると考える。

6 まとめ

想像力(気づく、先を読む、計画する)、行動力(発信する、判断する、自立する)、理解力(自分を知る、挑戦する、協調する)の力を付けるために本校では環境教育を推進してきた。残念ながら校内外への環境コミュニケーション活動の推進については、コロナ禍の中、かなりの制約や中止を余儀なくされた。しかし、一方でオンライン環境講演会、ミーティング等、新しい形での学習も進められてきた。

ISO14001認証取得校のブランドは消失するが、今後、本校ではISO14001にとらわれず、学校独自の発想で新たな環境教育を進めていきたい。

2. ISO14001 20年の歩み

本校は、2002年11月にISO14001の認証を取得して以来、20年間にわたりISOに準拠して環境活動、環境教育に取り組んでまいりました。その結果、環境活動に対する意識が高まり、環境教育への取組が定着したこと、また一方では認証を継続していく上での様々な課題も浮かび上がり検討を重ねた結果、ISO14001の認証を2022年12月31日をもって返上いたしました。

2023年1月1日からは、従来どおり環境活動並びに環境教育を本校の重要な教育方針の一つと位置づけ『四日市農芸高校版 環境マネジメントシステム』として環境方針に基づいた取組をスタートいたしました。引き続きこれまで培ってきた環境活動、環境教育の推進など継続した取組を行ってまいります。

2001年度・・・ISO認証取得に向けた準備委員会設置

2002年11月18日 ISO14001 認証登録 (ISC)

- ・2005.10.20. 再認証 (MSA)
- ・2008.10.30. 再認証 (MSA)
- ・2011.10.26. 再認証 (MSA)
- ・2014.10.29. 再認証 (MSA)
- ・2016.10.27. 新規格移行 (MSA)
- ・2017.10.27. 再認証 (MSA)
- ・2019.10.29. 認証範囲(関連組織)に水田を追加 (MSA)
- ・2020.10.28. 再認証 (MSA)
- ・2022.11.18. 認証取得20年をむかえる

2022年12月31日 ISO14001 認証を返上する(認証取消)

*本校ISO140001の取組みに対する外部からの評価 ～記録～

- ・2006.12.11. 地球温暖化防止活動「環境大臣賞」受賞
- ・2007.2.6. 三重県率先実行大賞「グランプリ」受賞
- ・2007.11.27. モンゴル・ウランバートルより環境視察団来校
- ・2007.11.29. 野呂三重県知事視察
- ・2008.1.15. ドイツ・トリア単科大学より環境視察団来校
- ・2009.6.7. 日本環境経営大賞「環境経営優秀賞」受賞
- ・2009.9.21. カンボジアより環境視察団来校
- ・2009.12.17. 中華人民共和国・河南省より環境視察団来校
- ・2011.3.8. ペルー共和国より環境視察団来校
- ・2014.2.11. 生活協同組合コープみえ環境活動団体「特別賞」受賞
- ・2015.11.2. マネジメントシステム永年認証表彰 (MSA)
- ・2018.12.2. みえの防災大賞「防災奨励賞」受賞
- ・2019.9.21. 「伊勢湾台風60周年の集い・みえ」において
防災活動の取組みを発表する機会を得る(農ク・家ク代表の生徒が発表)



3. 四日市農芸高等学校 環境理念・環境方針

環境理念

私たちは科学技術の発展のおかげで、たいへん便利で快適な生活を手にすることができました。しかしその一方で、限りある地球資源の大量消費やそれに伴う環境破壊が深刻化しています。このまま放置すれば、やがて人類は自分たちの身勝手な行為により自滅する危険さえ生じてきました。

私は、三重県立四日市農芸高等学校長として、美しく素晴らしい地球環境を後世に引き継ぎ守っていくために、日常の教育活動の中に導入した環境教育を充実させ、心豊かな人間性を育み、地域社会に貢献する人材を育成する学校を目指します。生徒の環境問題への関心を高め、自然や環境を尊重する態度や能力を養い、積極的な環境保護に取り組むことのできる人材を育成することを教育方針の一つとします。

そのため「環境マネジメントシステム」を構築し、実行することをここに宣言します。

環境方針

1. 環境教育を推進します。
2. 環境に配慮した行動を推進します。
3. 環境汚染の予防と環境保護に努め、法規制などの順守に努めます。
4. 環境マネジメントシステムの継続的な改善に努め、開かれた学校づくりを推進します。

2023年 1月 1日

三重県立四日市農芸高等学校長

4. 2022年度 環境目標

	【環境方針】 環 境 目 標	取 組 み の 計 画 実 施 事 項	責任者部門
	【環境教育の推進】		
1	・環境教育を通して、 生徒に「想像力」「行動力」「理解力」 の3つの力をつける	①各教科での環境教育 ②環境週間 ③環境月間 ④地域とのコミュニケーション活動 ⑤防災教育（防災訓練）	全 部 門
	【環境汚染の予防と環境保護】		
2	・節電の実行 ・節電の啓発活動を実行する	① 節電型電球の100%利用の推進 ② 節電のための啓発活動の実施	事 務 部 門 教職員部門
3	・節水の実行 ・啓発活動を実行する	節水(不要な水を出さない取組み)のため の啓発の実施	事 務 部 門 教職員部門
4	・紙使用量の減量化と分別処理による 紙の再利用化を推進する	使用後の分別処理を徹底し、紙使用 量における100%リサイクル化に努める。	事 務 部 門
	【開かれた学校】		
5	・環境コミュニケーションの推進 「環境意識の向上と環境コミュニケー ション活動を推進する」	①校内外への環境コミュニケーション 活動の推進 ②環境報告書の発行	環境美化委員会

5. 環境教育の推進

(1) 環境教育プログラム

◇全部門共通

実施事項		教育内容	実施予定月	対象
環境週間	全校	環境に関する話題に触れる 学校環境デーの実施(地域の清掃活動)	6月	全生徒
環境月間	各授業	全教員が環境教育を実施する	10～11月	全生徒
防災教育	全校	防災教育(防災訓練)を実施する	9月、12月	全生徒

◇運用基準

- ① 環境実行計画にもとづき環境教育プログラムを実施する。
- ② 年間を通して、各教科等で環境教育を実施する。
- ③ 環境週間、環境月間において取り組んだ環境教育は、「環境教育実施報告書」にまとめる。
- ④ 地域とのコミュニケーション活動、防災教育については、年度末に「環境報告書」にまとめる。

(2) 家庭との連携

- ① 『学校ホームページ』を通して、学校行事、生徒会の環境活動や各学科・コースで実施している環境教育・環境活動(地域交流等)を紹介。

(3) 地域との連携

- ①文化祭(農芸祭)・・・新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、事前申込制により限定公開(保護者、河原田地区、中学生)をして実施。
 - ・各学科・各コース等において、学習成果の発表及び環境活動の紹介や体験を実施。
 - ・本校の教育活動、環境活動について、取り組みの写真展示等。
- ②園芸デザインコース
 - ・井田川町づくり協会、吊り鉢(パチュア・トリア)の製作と販売提供。
 - ・市内小・中学校(富州原中、塩浜中、河原田小等)卒業式用草花(サイリア)の製作・装飾と販売提供。
 - ・地元河原田地区の方を対象に寄せ植え教室を実施。
- ③造園技術コース
 - ・生徒たちが講師となって、四日市・鈴鹿地区の中学校へ出前授業に出向き「中学生に造園の良さを伝え隊活動」と題して中学校の樹木剪定、環境整備を実施。
- ④自然環境コース
 - ・国土交通省の指標水生生物水質調査を、コースの生徒が県内の小学生に指導し行った。
 - ・地域の河川水質と伊勢湾の環境に関する調査を行い、報告書を作成した。
 - ・鈴鹿川でのゴミ調査を通年でを行い、ゴミの種類や量、意識調査などを行い、報告書を作成した。
 - ・外来種の有効活用について、地域のアメリカザリガニとモウソウチクの肥料化に取り組みその効果を検証した。
 - ・環境(野外体験)保育の研究、実践を亀山市の保育園と連携し行った。
 - ・四日市大学と連携し、モウソウチク林の拡大に悩む地域の人々にモウソウチクマルチの研究とその結果を伝えた。
- ⑤販売情報・食品開発コース
 - ・三重県農林水産部と連携したマコモタケの「ASIAGAP」、「みえの安心食材」認定の取り組み。
 - ・四日市市商工課や四日市商店連合会と連携した地元市場活性化に向けたPR活動やポスター作成等の取り組み。
- ⑥生活福祉コース
 - ・河原田地区「すくすくサロン」への参加や、河原田・内部学童保育所との交流を実施。

⑦服飾経営コース

- ・農芸祭までのドキュメンタリー番組出演。(メーテレ)

⑧ダンス部

- ・三重県高等学校ダンスフェスティバルへ参加、入賞。
- ・ダンスワンプロジェクト2022出演。(日テレ)

⑨人権サークル

- ・鈴鹿市人権教育センターが取り組んでいる「共生交流ひろば」に定期的に参加し障がいのある利用者さんとのづくり等を通じて交流。

(4) 企業との連携

①自然環境コース

- ・四日市少年自然の家での里山保全実習の実施。
- ・亀山市立加太保育園の協力のもと、環境保育に関する実践を行った。
- ・県内の林業会社でインターンシップを行い、県内の森林を管理する仕事に2名の生徒が就いた。

②園芸デザインコース

- ・四日市南自動車学校、花壇づくりの協力。

③生産技術コース

- ・酒造会社(寒紅梅酒造)において、本校の酒米を用いたオリジナル日本酒、梅酒の販売。
- ・御幸毛織株式会社と羊毛の廃材利用研究。
- ・年間を通して、露地野菜と水耕野菜を三重促成(株)を通じてイオン四日市尾平店へ出荷・販売。
- ・年間を通して、養鶏(たまご)と水耕野菜を地元河原田「吉楽庵」へ出荷・販売。

④販売情報・食品開発コース

- ・パン屋 Roki・野呂食品と連携した四日市産シイタケを使ったパンの開発、販売。
- ・ヤマモリ株式会社の方を講師に招いた「食品製造の楽しさ」等の講義の企画
- ・三重県環境保全事業団の方を講師に招いた「食品安全について」等の講義の企画。

(5) 大学等との連携

①自然環境コース

- ・四日市大学との連携で、地域のモウソウチク林の利用についてフォーラムで発表を行った。

(6) 環境週間(2022年6月6日～6月10日)

- ①生徒環境委員会による、ゴミの分別状況、日常清掃の点検。
節電・節水・美化の啓発ポスターの作成と校内掲示。
- ②体育祭終了後の清掃確認(四日市市中央緑地競技場)
- ③学校環境デーの実施・・・新型コロナウイルス感染拡大防止対策として中止。

(7) 環境月間(2022年10月24日～11月25日)

- ①生徒環境委員会による、ゴミの分別状況、日常清掃の点検。
節電・節水・美化の啓発ポスターの作成と校内掲示。
- ②農芸祭期間中、農芸祭美化係・環境委員により、校内清掃を実施しました。
- ③環境月間を中心に環境教育プログラムに基づき、環境教育を実施致しました。

(次ページより、環境教育実施報告書一覧表を掲載)

2022環境教育実施報告書一覧表

教科	名前	『テーマ』教育内容	想像力			行動力			理解力		
			思いやり	イメージ	自分ごと	自主性	ムダなくす	人のため	ISO	意見	本質
国語	佐々木悠	教育テーマ『自分の身の周りの環境を意識すること』 【教育内容】近現代の題材を通して、過去の日本の風景に触れ、現在との違いを認識する ①近現代の代表作の自然環境などから環境に関することを学ぶ。 ②現在の暮らしと過去の暮らしについて考え、現在の自分の暮らしを考える。 ③意見の発表を行い、環境について同年代の考えに触れる	●	●	●				●		●
	新庄美都代	教育テーマ『ゴミの削減と分別の徹底』 【教育内容】 農芸祭の展示場所を、今年は渡り廊下に変更した。通行者の動線を妨げないよう、過度な装飾は避け、余分なゴミが出ないよう、なるべく継続して使用できる装飾品を利用する。また、片付けの際にはリサイクル可能な物はきっちり分別し、再利用可能なものは良い状態で保管できるよう整理する。		●			●	●			
	矢吹泰盛	教育テーマ『「情報」をテーマにした評論文を読み、想像力や理解力をつける。』 【教育内容】 「情報」をテーマにした評論文を通して、目の前にある諸問題を「自分の事として考えることができる力」を意識させ、「未来をイメージして今すべきことを考える力」を身につけることを目標とした。 まず、「ひとまず、信じない」という評論文を使い、現代は膨大な情報と簡単に触れることができるようになったが、それらと生徒自身はどう向き合うのかについてまとめた。 つぎに、「情報と身体」という評論文を通して、情報リテラシーに関する意識を高め、生徒たちに「物事の本質を見抜ける」大切さを示した。	●	●		●	●			●	
数学	田辺 淳	教育テーマ『真の無駄の削減』 【教育内容】 よくタブレットを使った授業をするなどで紙などの削減といわれるが、よくよく考えてほしいのはタブレット使用するだけで電気は使われ消費していく。それを授業だけでなく自宅で学習するとなるとどれだけの電気を消費し、充電にお金がかかるのだろうか？ ましてや記号などでタブレットに備わっていない場合はさらに困難である。 真の削減は無駄な電気を使わないことで、手書きのノートを要領よくまとめて書くことがベストである。			●		●				
	岡村英利奈	教育テーマ『数学でのプリント削減』 【教育内容】 授業内で練習問題を解き終わった生徒に配布するプリントを全員に配布するのではなく、必要に応じて選択できるようにした。また、全員分印刷するのではなく、1クラスでどれぐらいの生徒がプリントを持って行くか様子を見てから追加でプリントを印刷した。これによって、ただ与えられた問題を解くだけでなく、生徒自身が自分で今すべきことを考えてプリントを選択して解くようになり、プリントの印刷枚数を減らすことができた。また、追加のプリントもなるべく問題、解答が両面1枚で収まるように工夫した。			●		●			●	
	後藤憲弥	教育テーマ『掃除はなぜするん！？』 【教育内容】 ◎掃除をきちんとしない、いいかげんにやる、通院等の理由で勝手に帰って行く生徒に対してなぜするのか、落ちていたゴミはそのままでもいいのか、例えば通院で帰るのであっても教師に伝えず帰って行っているのかなど、その都度、生徒たちに向け諭すように教えています。	●						●		●

2022環境教育実施報告書一覧表

教科	名前	『テーマ』教育内容	想像力		行動力			理解力			
			思いやり	イメージ	自分ごと	自主性	ムダなくす	人のため	ISO	意見	本質
社会	西川 峻	教育テーマ『市場のしくみ・外部不経済』 【教育内容】 需要・供給曲線を通して、価格の決定について学ぶ。また、価格の変動についての理解を深め、現代経済への興味・関心をひきつけ、実社会での消費活動に考えて行動できるようになる。 市場メカニズムでは解決できないこととして、公害や環境被害等の外部不経済がある。外部不経済を学ぶことにより、経済と環境が結びついていることを知る。		●	●					●	●
	渡邊 博	教育テーマ『生活の舞台としての気候』 【教育内容】 熱帯雨林気候の特色と生活について学ぶ際、焼畑農業について取り上げた。近年、焼畑農業が熱帯林の破壊の一因とされているが、もともと焼畑が循環型農業であり、自然環境に適応した農業であることと、熱帯林破壊の最大要因が先進国への食料や資源の提供のための伐採であり、南北問題が背景にあることを指摘した。また焼畑が要因とされているのは人口増加による焼畑の増加によってサイクルが狂っていることに起因することを指摘した。		●							●
	古川 稔	教育テーマ『市場の効率性』 【教育内容】 現代社会の経済分野において「市場のしくみ」を扱った。 市場メカニズムは消費者を幸せにする側面がある。一般的には企業が競争の波にさらされることにより、できるだけ安く財を買おうと考える消費者にとって望ましい状況が生まれる。この点については、生徒も容易に理解できる。 企業間の競争は、家計にとって望ましいだけではない。企業が利潤を増やすためには、技術開発や原材料や労働力の投入を抑えただけ費用の削減に努める必要がある。原材料も労働力も限られた資源であるので、それらを節約することは資源の有効活用につながる。 この機能は道徳的な説得や政府の命令によって進められるのではなく、企業間の競争と価格の需給調整メカニズムによって、自動的に進められる。 以上のことについて例を挙げながら、生徒に教授した。		●							●
理科	山野亜佐美	教育テーマ『豚の眼の解剖を通じて、処分するものから知識を得る』 【教育内容】 豚の眼の解剖を通じて、目の構造を理解し、自分の眼について興味関心を持つ狙いがある。 豚の眼はヒトの眼と同じくらいの大きさであり、錐体細胞という視細胞が集まっている黄斑という場所以外は、ヒトの眼と同じつくりになっている。そのことを事前に学習したうえで、実際にそのつくりになっているのか、解剖をして確かめた。 一人1個豚の眼を配布し、まずは外側からの観察、その後眼球の周りについている肉を丁寧にハサミで切除する。その後眼球の裏から出ている視神経、角膜から見える瞳孔の色、虹彩の色を確認した。外側からの観察後、ハサミで切断し、眼球の中身を確認した。ゼリー状のガラス体や水晶体、暗幕の効果がある黒い色素をもつ脈絡膜の観察を行った。水晶体は紙の上に置き、文字がどのように見えるかレンズの働きがあるか観察した。 事前に学習したこと、教科書に載っていることが本当なのかどうか、自分の眼で確認することができ、生きているからこそその弾力やさわり心地など、実際に手に取ってみたいとわからないことの気づきもあった。 また、処分するものが実験材料になることで、無駄の削減、エコな活動ができるとともに、実験のために動物を殺すことがなく、動物愛護の観点からもよい。		●	●						●
	杉浦克行	教育テーマ『環境問題を考える上で』 【教育内容】 環境問題と、問われると地球温暖化・カーボンゼロ等大きな視点での回答であるが、それも必要であるが、まず身近な視点で考えることも大切である。 家庭、学校、地域、町、市、県、日本と。			●					●	●

2022環境教育実施報告書一覧表

教科	名前	『テーマ』教育内容	想像力			行動力			理解力		
			思いやり	イメージ	自分ごと	自主性	ムダなくす	人のため	ISO	意見	本質
理科	川口智美	教育テーマ『液体窒素で-196℃の世界を体験し、実験後のゴミの分別を徹底する』 【教育内容】 身の回りの物体が、-196℃の世界でどのように変化するかを体験させる。また、生花・バナナ・テニスボールが、-196℃の世界でどのような変化をするのかを、予想を立てさせてから実験させた。実験後にいろいろな種類のゴミが出るが、環境に配慮したゴミの分別ができるように、それぞれの材質ごとに回収バケツに分別させて捨てるように指導した。また、片付けに関しても、みんなと協力して片付けに取り組み、自分から進んで行動できるように指導した。	●		●	●	●	●	●		
英語	伊藤栄紀	教育テーマ『Nelson Mandela』 【教育内容】 諦めずに粘り強く差別や国が抱える課題に立ち向かい、国のために動く南アフリカ初の黒人大統領、Nelson Mandelaについて学んだ。これをきっかけに環境問題に対しても自分事と捉え、周囲のために、地道に粘り強く動ける力を身に付けさせることを意識した。	●	●	●			●			●
	大島江里子	教育テーマ『安藤百福』 【教育内容】 インスタントラーメンを発明した安藤百福について学習した。インスタントラーメンがヒットしたら次は海外に進出し、その途中でカップラーメンを思いつきまたヒットさせる。安藤はその時既に60を超えていた。安藤は1つのことに成功してもまた新たなアイデアを思いつき次のチャレンジをしていく。また課題が出たときに身近な物事の中にその答えを見つけていくという安藤の問題解決方法に触れ、諦めないこと、人生で選ずることは何も無いということを学んだ。			●	●		●		●	●
英語	西塚百合	教育テーマ『企業によるSDGsの取り組みについて』 【教育内容】 企業によるSDGsの取り組みに関する新聞記事の切り抜きを教室掲示し、朝のSHRで紹介をした。今後就職をする際の企業選びの一つの視点として、どのような形で企業が社会に貢献しているかを見ることの重要性を伝えた。 個人個人で取り組むことだけでなく、これからは企業自体が製品を開発する方向性も「環境に負荷をかけない」、「環境をよりよい状態に戻す」ことを目標のポイントとして持つことが大切である。 ただ、「環境によいものを選んで使用していた『ヤシ油』の生産のために、生産地の森林が伐採され、動物の生態や人の住環境に影響を及ぼしているという現実を知ってショックを受けた。」という自分自身の体験なども紹介し、環境について考えるときに多様な視点が必要であると伝えた。			●	●		●		●	●
保健体育	加藤友理	教育テーマ『ゴミを捨てる者は幸せを捨てる ゴミを拾う者は幸せを拾う』 【教育内容】 毎日使わせてもらっている体育館、そしてその周辺や校舎内。今年度も、新型コロナウイルス感染症の流行により、高校で行われる大会については、無観客での開催となった。その中でも、先日3年生最後の大会を終えることができた。大会を通して、会場の準備や運営を手伝う中で、様々な視点から物事を考える力を身に付けさせた。目に見えている所だけの掃除や作業としての掃除を行うのではなく、掃除の意味を理解し、気持ちの入った掃除やおもてなしの心、物事を相手の立場として考えることの大切さなどを考え取り組むことの大切さを伝えた。また、その感謝の気持ちを込めて、日々の掃除にも取り組むよう話をした。良い行いも悪い行いも、必ず、巡り巡って自分達へ返ってくるということ、日常の当たり前は決して当たり前ではないことを話し、物事をぶつ切りして考えるのではなく、つなげて考えることの大切さを理解し、実践させた。	●	●	●			●			●

2022環境教育実施報告書一覧表

教科	名前	『テーマ』教育内容	想像力			行動力			理解力		
			思いやり	イメージ	自分ごと	自主性	ムダなくす	人のため	ISO	意見	本質
保健体育	川戸正志	教育テーマ『 整理整頓された環境づくり(ケガのない環境づくり) 』 【教育内容】 武道場周辺の石や葉っぱの掃除を行いました。 使用している場所に感謝の気持ちと校内の美化の必要性について指導しました。	●					●			
	森田花子	教育テーマ『 みんなが気持ちよく使えるために 』 【教育内容】 陸上競技部が部活で使用する道具を保管する場所の使い方が乱雑であったため、周辺の掃除、荷物の整理を行いました。毎日使用するものが保管されているので、誰もが使いやすくするよう心がけました。その際、生徒たちに頻りに使用するものと、そうでないものを分けて、自分が使用するだけでなく、仲間も使いやすいように片付けるためにはどうすればいいかを考えておく工夫をさせました。 片付けの際に出た不要物は分別するように指導しました。生徒自身も道具の素材をみてどこに分別されるかを考えることができました。 また怪我の防止のため、走路の石や葉っぱを掃除しました。	●		●			●		●	
	三輪雄輝	教育テーマ『大気汚染と健康』 【教育内容】 大気汚染が健康と環境に対して悪影響を与えることを理解し、それが我々の日常生活から発生していること、また、一人一人が環境に対して思いやりを持ち、小さなことからできること(レジ袋をもらわない、電気はこまめに消す等)に取り組んでいく必要があることを指導した。 大気汚染は日本だけの問題でなく、世界規模での環境問題であることについても触れ、最近、身近に感じる異常気象も大気汚染が原因で起こる地球温暖化に伴って発生していることも関連づけて指導した。	●		●	●	●	●		●	●
家庭	加藤裕美子	教育テーマ『地球に優しい調理実習』 【教育内容】 調理にともなう一連の活動(調理、後片付け、ごみの始末)を食材や資源を大切にするという視点を持ちながら実習を行うことにより、地球環境を考え、身近な生活の中で実践しようとする意欲を育てる。 ①調理 <廃棄量、エネルギーを節約する> ・材料の無駄がないように工夫して調理する。(食品の廃棄を少なくするなど) ・調理器具を上手に活用して調理する。(鍋のふたの活用など) ・水の量、火加減(鍋底から火がはみ出さないなど)を料理に合わせて調理する。 ②試食 ・食べ残しがないようにする。 調理の後片付けやごみの処理のできる工夫を、実際に家庭で行っていることを振り返りながら考える。 ③ごみの処理 <ごみを軽くする方法の工夫など> ・生ごみは水分をよく切る。(チラシ製の入れ物の製作と活用)	●		●	●	●			●	
	大下みなみ	教育テーマ『安全・安心・快適な住まい』 【教育内容】 高齢者や障害者のための住環境整備にあたって、より安全・安心・快適で自立した生活を送れるようになるためには、どのように整備することが大切なのか、基本的な知識を学ぶ。また、高齢者や障害者だけでなく、妊婦や子どもに対しても、安全・安心・快適な生活を営めるようにあらゆる人に配慮した住環境整備についても学ぶ。 具体的には、生活行為別に見て屋外移動、外出、玄関・屋内・階段移動、排せつ、整容、入浴などと各テーマで学習する。それぞれ生活する人の身体状況、家族、経済的な状況、趣味や好みなども考えなくてはならない。自分自身や周囲の方々の生活を想像しながら、適切な住環境とはどんなものか考える。	●	●	●			●			●

2022環境教育実施報告書一覧表

教科	名前	『テーマ』教育内容	想像力			行動力			理解力		
			思いやり	イメージ	自分ごと	自主性	ムダなくす	人のため	ISO	意見	本質
家庭	奥田佳那	<p>教育テーマ『 廃材等を活用したレクリエーション 』</p> <p>【教育内容】 3年生の生活福祉コースでは、校外で行う実習に廃材等を使った工作やレクリエーションを考え、子どもたちと交流している。今回、農芸祭では、主に段ボールや牛乳パック、ペットボトルなどの廃材を利用したゲームを製作した。また、今までの実習で使用したものをさらに形を変えて、再利用した。 農芸祭終了後の片付けの際も、ゴミを分別し、さらに再利用できるものはないか検討した。</p>	●	●		●	●	●			●
	細川美和子	<p>教育テーマ『 調理実習における環境問題への取り組み 』</p> <p>【教育内容】 1年生「フードデザイン」の授業では、年間5回程度、調理実習を行っている。今回は、2回目の実習で、生徒たちも調理室の使い方など、おおよそわかってきている。今回は、中華料理の献立で、初めて中華鍋を用いて実習を行った。和食に比べると、油の使用量も多いので、洗うときには洗剤や水の使用量が増えてしまう。「食器洗剤の使用量を減らすために、中華鍋の中に料理を残さないようにすべて分けきる、ペーパーで拭きとってから洗う」ことを指示し、実習を行った。実習のあとの振り返りの時間に、環境に配慮した調理について考えさせた。</p>		●		●	●			●	
	立木直子	<p>教育テーマ『無駄のない食材の準備・利用』</p> <p>【教育内容】 2年食物経営コースの生徒は、2学期末に、食物調理技術検定2級を受検する。各自で立てた献立に従って実技（調理）を行うので、使用する食材は基本的に各自で準備する。また、検定本番の採点項目で、生ごみのチェックがあり、可食部が廃棄されたりすると減点になる。これらのことと絡めて、無駄のない食材の準備・利用について、普段から意識・実践しようとする意欲を育てる。</p> <p>〈食材準備〉 初めて実技練習のため食材を準備してきたときは、まだ使用材料・分量が定まりきっていなかったこともあり、多めの量を持ってきて使い残す生徒が多く、また、惜しげ無く食材を使う感じもあったので、献立が固まって使用材料・分量が定まったら、極力無駄のないよう食材を準備して使い切ることを指導した。</p> <p>〈調理〉 へたの取り方・皮のむき方などで、可食部を廃棄しない意識を持たせた。</p>		●	●		●	●			
	百々由里子	<p>教育テーマ『 風呂敷の染色 』</p> <p>【教育内容】 2年生から始まった染色の授業では、4月からさまざまな技法を用いて小物を染色してきた。手順や工程を考えると、どの作品も授業だけで完成させることは難しいため、放課後に残って作業をし、計画的に進めるよう指導してきた。また、染色に必要な染料や助剤などを扱う時の注意事項（ゴム手袋やエプロンをつける等）や、材料は無駄なく使用すること、準備や片付けなどもみんなで協力するよう声かけをしてきた。</p> <p>しかし、教員の指示や仲間の問いかけなどに反応がないことも多く、自ら積極的に動ける生徒は限られている。今回の風呂敷の染色は、12月から始まる反物を染める練習として、技法の確認や色合いなどを試す実習となっている。今までに取り組んだ染色技法を組み合わせながらデザインや手順を考え、時間や材料がどのくらい必要になるのかを見積もり、11月上旬に完成を目指して現在実習を行っている。その中で、同じ作業をする仲間のことを考え、助剤や染料などをすすんで準備したり、ガスの元栓や給湯器の管理、使った器具の片付けなど、少しずつではあるが人のために働ける生徒が増えてきたように感じている。</p>				●		●	●		

2022環境教育実施報告書一覧表

教科	名前	『テーマ』教育内容	想像力			行動力			理解力		
			思いやり	イメージ	自分ごと	自主性	ムダなくす	人のため	ISO	意見	本質
家庭	中村通子	教育テーマ『材料を無駄く使う』 【教育内容】 一年生の「ファッション造形基礎」の授業で、シャツブラウスの製作を始めた。その際、型紙を布に置いて裁断する。生徒は単純に型紙を置いていくが、パズルを組み合わせるように無駄なく工夫して型紙を置くように指示をした。 寸法や、形によってうまく布に置けないと判断した場合も、工夫すると裁断が可能になることを伝えた。ただし、柄合わせが必要な場合は布が足らなくなることもあるということも学ばせた。また、失敗して再度裁断をすることも想定してすることも伝えた。				●	●				●
	細野 歩	教育テーマ『 【生活産業基礎】衣生活における環境問題とエコロジー』 【教育内容】 衣生活においても、環境問題に対して様々な取り組みを行っていることを生徒に伝えた。 サマルリサイクルの取り組みを取り上げ、ペットボトルから繊維を再生して衣服が作られたり、オーガニックコットンを使用した商品を利用することについてや、着用しなくなった衣服の回収の取り組みなどを紹介した。 また、自分たちができることを考えさせた。たとえ小さな事でも、一人一人が心がければ大きな取り組みになることを伝えた。		●	●	●	●		●	●	
	兼久裕美子	教育テーマ『サバイバルクッキング』 【教育内容】 3年福祉コースは、1年生でフードデザインで学習した後のフードデザインで調理実習を行っている。11/10にハイデックス米の炊飯をして、災害時に必要になる貴重な体験をしている。さらにこの調理実習にて、災害後比較的手に入りやすい缶詰や根菜、乾物を使って作れる、土鍋で炊き込みご飯をつくった。土鍋は保温性がよく、炊飯器より短時間の加熱ですむために、省エネルギーにもなることを、知った。また、大根とにんじんの皮を使って、きんぴらにして、材料を無駄なく使うことを学んだ。		●	●	●	●				●
農業	上田圭祐	教育テーマ『環境に優しい農業の実践について』 【教育内容】 現在、課題研究の授業では、地元四日市の重要な産業の一つである紡績業の御幸毛織株式会社より製品を作る際に出る産業廃棄物であったウールを農業に利用できないかという取り組みを行っている。実際に露地栽培で栽培して観察を続ける中でウールを土に入れた側の生育が良いことを見ることができた。そういった今までにない考え方や新しい農業の実践、環境に優しい農業を作業の中で気付かせることを目的として取り組んだ。		●	●		●	●		●	
	奥田 毅	教育テーマ『養豚業についての講演会』 【教育内容】 鈴鹿で養豚業を営んでいる「クボタビッグファーム」を講師に迎え講演会を開催。 ・環境に配慮した管理運営について ・養豚業という職業についての思い（飼育に関して、商品づくりとして、社員の福利厚生など） ・2名の本校卒業を招いて、職業選択についての経緯、現場で働いての現状報告など ・質疑応答：卒業生、講師に向けての質疑応答を行い、講演を聞いて関心を持った生徒が質問をした。インターンシップ希望者も現れた	●		●	●				●	

2022環境教育実施報告書一覧表

教科	名前	『テーマ』教育内容	想像力			行動力			理解力		
			思いやり	イメージ	自分ごと	自主性	ムダなくす	人のため	ISO	意見	本質
農業	坂倉忠男	<p>教育テーマ『施肥と環境問題』</p> <p>【教育内容】 肥料は、農業生産を行なう上で必要な資材である。一方で、昨今、過剰施肥の問題が指摘されている。圃場から流出した化学肥料や家畜のふん尿を活用した堆肥等から肥料成分が河川、海、湖などに流れ、「富栄養化」を招き、水質汚染につながっていることを知り、地球環境に配慮した施肥技術が必要であることを指導した。特に、追肥の際、肥料を圃場の表面に散布するだけで、土に混入しない施肥方法は、作物の吸収量が少なく非効率的で過剰施肥になりがちであるとともに、流亡しやすく水質汚染を招きやすいことについて触れた。適量施肥に心がけ、作物が効果的に吸収できるような施肥技術（例えば、側条施肥で施肥後中耕する等）、追肥時期を見極めることの重要性について指導した。また、肥料の三要素のうちリン酸とカリは、天然の資源であるリン鉱石とカリ鉱石が原料であり、今のままではいずれ枯渇することから将来に向けた展望が持てない。したがって、現状の化学肥料に依存した農業生産では、この点からも循環型農業とは言えないことを指導した。</p>	●	●	●	●			●	●	●
	森下善郎	<p>教育テーマ『食の安全』</p> <p>【教育内容】 私たちの食べる食品は60%が何らかの加工食品です。レトルト食品、冷凍食品などを電子レンジやお湯で温めたり、フライパンで焼くだけで食卓に出すことのできる便利な総菜です。しかしそういった食品の中には、風味や外観をよくするための着色料、香料、保存性を良くするための酸化防止剤などの食品添加物が含まれています。そういった食品添加物が実際にいろいろな食品に含まれていることをパッケージで確認し、今までは添加物の中には安全性が不安視されているものもあったことを伝えた。また遺伝子組み替え作物、ゲノム編集作物などを使い、今後増えていこう食品の安全性も伝え、将来は健康を考えたと少しでも賢い消費者になれるような内容の授業を行った。</p>			●						
	金谷達也	<p>教育テーマ『ISO14001とは何か？ 農芸高校での取り組みとは？』</p> <p>【教育内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 水耕野菜栽培の中で、環境問題について考える。 ①水耕栽培で環境に良いところ環境に悪いところを考える。 ②これからの水耕栽培、水耕温室はどうあるべきか考える。 四日市農芸高校でのISO14001の取り組みを理解する。 ①ISO14001とは何か。 ②四日市農芸高校で取り組んでいること。 ③環境教育の大切さ、これからの取り組みについて。 	●		●	●	●	●	●	●	●
	古城義也	<p>教育テーマ『野菜における農薬の有効利用』</p> <p>【教育内容】 野菜の農薬散布をするにあたり、規定量での農薬散布の必要性について話した。農薬は、人間の体に害を及ぼすもの、環境を害する悪いものとして認識されている。しかし、野菜など特にナス科の野菜には、害虫から身を守る、危害を受けたらその部分を修復（再生）する能力がある。その際に、分泌されるのが有毒の成分である。その成分の野菜をたくさん食べることで体内に毒素を蓄積することになり中毒をおこすこともある。また、植物は直接害虫による害がなくても、害のあった植物が臭いを発することで周りの植物へ伝え危険を共有するともいわれている。そういった有毒の野菜をつくらないためにも害が少ない量で農薬散布をし、有毒分泌を防ぐために農薬があることを知ってもらおう。</p>	●		●	●	●	●		●	

2022環境教育実施報告書一覧表

教科	名 前	『テーマ』教育内容	想像力			行動力			理解力		
			思いやり	イメージ	自分ごと	自主性	ムダなくす	人のため	ISO	意見	本質
	山下詞子	<p>教育テーマ『ホワイトクローバーでお米をカメムシから守れ！その2』</p> <p>【教育内容】</p> <p>昨年より、斑点米カメムシ対策として、あぜ道にホワイトクローバーを播種している。まだ全体的には言い難いが、順調に成長している。途中経過として、病害虫調査の結果と玄米の等級検査の結果を参考に効果の有無を考えた。病害虫検査から・・・カメムシの数は、昨年とほぼ同じまたはやや多かった。今年も県内でもカメムシが多いという事実もあり、これだけでは効果の有無は判断できない。等級検査から・・・もち米、酒米で着色粒（斑点）が理由で二等米となった。</p> <p>昨年ホワイトクローバーを播種したのは、特に被害の多かったもち米を栽培する水田周辺のあぜ道だった。昨年のもち米の等級は、着色粒（斑点）が理由で三等米だったことから、今年はカメムシ被害が少なかったと考えられる。よってホワイトクローバー効果はあったかも？</p> <p>酒米は昨年、着色粒（斑点）が出なかったが、今年被害が出たということは、もち米周辺からカメムシが酒米の方へ移動してきた可能性がある。</p>		●							●
	増田さゆり	<p>教育テーマ『GAPの取組みについて』</p> <p>【教育内容】</p> <p>GAPについての考え方を農業と環境の授業の中で説明した。対象の農作物に対してより安全で安心な栽培ができるようマニュアル化をしていること。使用した農薬や肥料を使用ごとに記録し、環境を汚染しないような使用方法を確認しながら実践すること等を具体的に分かるように伝えた。</p>	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	森村直人	<p>教育テーマ『HACCPシステム、ISOについて』</p> <p>【教育内容】</p> <p>3年食品製造において、HACCPシステム、ISOについて学習指導を行なった。</p> <p>HACCPシステムを行なうことで、食品ロスにつながることを伝えた。</p> <p>ISOについては、ISO14000シリーズが環境マネジメントシステムのことで、節電・節水・ゴミの分別が環境にやさしくなることを伝えた。</p>		●		●			●		
	山口治秀	<p>教育テーマ『食品容器について』</p> <p>【教育内容】</p> <p>農芸祭を迎えるに当たって、食品バザーの容器について学習した。</p> <p>食品バザーは楽しいものであるが、その後のゴミの量が極めて多い。そのため本校ではリサイクル容器を利用することで、ゴミを減らし環境への負荷が少しでも抑えられるように取り組んできた。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響からリサイクル容器の利用を取りやめ、残念ながら「使い切り」の容器を利用せざるを得なくなった。また、できれば紙製品が望ましいが、用途や費用によってはプラスチック製品でもやむをえない状況である。</p> <p>このような話をしたうえで、コースの食品バザーの容器をどうするか考えた。マイクロプラスチックの問題や化石資源を利用してしまふことを考慮したが、結局のところ、プラスチック容器を利用することになった。</p> <p>結果はこうなってしまったが、一度考えてみたことで、生徒の心の中で環境問題を考える一助になればと思う。</p>		●	●	●			●		●

2022環境教育実施報告書一覧表

教科	名前	『テーマ』教育内容	想像力			行動力			理解力		
			思いやり	イメージ	自分ごと	自主性	ムダなくす	人のため	ISO	意見	本質
農業	村田篤哉	<p>教育テーマ『花育 -人や緑が人に及ぼす影響-』</p> <p>【教育内容】</p> <p>●私たちは課題研究のテーマとして「花育」を選び、その課題研究の授業の一環として10月29日(土)に富洲原小学校で行われました「富洲原地区文化祭」にて、「ミニフラワーアレンジメント体験」を行いました。</p> <p>●「花育」とは、「花や緑に親しみ、育てる機会をとおして、やさしさや美しさを感じる気持ちを育むこと」(農林水産省 HP)・「幼児や児童に対して、花と緑に親しみ、育てる機会を提供する取り組みで、花壇づくりやフラワーアレンジメントが、小中学校・地域のイベントなどで行われている。やさしさや美しさを感じる情操面の向上、農業体験機会提供、世代間交流、地域コミュニティの再構築、四季を通して花を楽しむ日本文化の継承、草花の需要拡大などが期待されている。」(実教出版「草花」第1章草花の多面的利用)</p> <p>●これらから当日の準備、本番、片付けに至るまで「想像力」を鍛えられ、校外の人とたくさんふれあうことでの「行動力」が身につく、自分たちが普段勉強している草花やフラワーがどういった目的でどういった人が興味を持ち活用されているのかを自分たちの肌で間近に感じることで「理解力」のレベルを上げることができたと思います。</p>	●	●	●			●	●	●	
	北畠英司	<p>教育テーマ『実験に用いた試薬品の廃棄とゴミ分別の徹底や節水への取り組み』</p> <p>【教育内容】</p> <p>1. 1学期に行った各試薬品の廃棄の仕方について再度徹底させた</p> <p>酸性の性質を含んでいるもの、アルカリ性の性質を含んでいるもの、重金属をふくんでいるもの。</p> <p>これらの試薬を、流し台に流してしまったり、混合させたりしまわないように、それぞれを分別して、決められたところに廃棄するようにさせた。</p> <p>2. 1学期に指導したゴミの分別について再度徹底</p> <p>実験で出た反応物や生ごみ、可燃物、ビニール類、ガラス器具の割れ物など、分別の徹底を行うことの意識付けを実験の時間内においても、しっかりと持たせている。</p> <p>3. 節水</p> <p>実験器具の洗浄などを行うとき、節水を心掛ける意識を持たせている。</p>		●	●	●	●			●	
	北山信二	<p>教育テーマ『節電』と『グラウンドの環境整備』</p> <p>【教育内容】</p> <p>『節電』</p> <p>部活動で照明を利用する際、通常より半分の照明で活動することに取り組んだ。節電する大切やお金の大切を生徒たちに伝えた。引き続き、この取り組みは続けていきたいと思っています。</p> <p>『グラウンドの環境整備』</p> <p>グラウンドの除草作業、石拾い、グラウンド整備に取り組んだ。人のため自分のためになるよう、感謝の気持ちを持って取り組むよう伝えた。</p>	●			●		●			
	丹羽唯月	<p>教育テーマ『農薬のメリットとデメリット』</p> <p>【教育内容】</p> <p>生物活用の授業でプランターに生徒が選んだプロッコリーや白菜などを育てている。</p> <p>その際に、雑草防止として籾殻をまき、農薬を使わず木酢液のみで害虫対策を行なった。</p> <p>残念ながら木酢液だけでは害虫対策はできず、駆除が大変だったが農薬を使用する際のメリットとデメリットを実際に体験して学ぶことができた。</p>			●		●			●	

2022環境教育実施報告書一覧表

教科	名 前	『テーマ』教育内容	想像力			行動力			理解力			
			思いやり	イメージ	自分ごと	自主性	ムダなくす	人のため	ISO	意見	本質	
農業	長屋 晃 鈴木涼平	教育テーマ『地産地消による環境への配慮とゴミ分別の徹底』 【教育内容】 1. 地産地消による環境への配慮 味噌の袋詰めの実習を通して、味噌の原材料の多くが三重県で作られたものであることを意識させた。実習加工品の原材料を地元のものを使用することで、輸送コストや燃料代削減につながる。また、それがCO2排出の抑制、地球環境への負担低減にもつながることをイメージさせた。 2. ゴミの分別について再度徹底 食品加工で出る生ごみ、可燃物、ビニール類、ガラス器具の割れ物など、分別の徹底を行うことの意識付けを実習時間内においても、しっかりと持たせてた。									●	
	深田将希	教育テーマ『不要な木材の再利用』 【教育内容】 課題研究の時間に、プロジェクト庭園の制作で竹の廃材を積極的に利用した。木槽の胴縁、竹垣、水琴窟の埋設土留め、ししおどし、獅子頭、雨水タンクのカバーなど、多くの箇所に検定で使って廃棄予定の竹材を使った。生徒にも、廃材を利用することで、何でもすぐ新しい物を買わずに資源を有効利用する意識をもつように指導した。		●			●				●	
	前田竜矢	教育テーマ『SDGsとは何か』 【教育内容】 ①SDGsとは、Sustainable Development Goalsの頭文字をとった言葉であること。 ②日本語では「持続可能な開発目標」と呼ぶこと。 ③一言で言うと、2030年までにより良い世界を目指す国際目標であること。 ④SDGsは発展途上国も先進国も普遍的なもので、日本も積極的に取り組もうとしていること。 ⑤SDGsは17のゴールと169のターゲットで構成されていること。 を話した後、 『HP「ジョブストーリー」～仕事の数だけ物語がある～』を使い、17のゴールを説明した。 最後になぜSDGsが注目されることになったのか、個人的な見解も交えて話して授業を終えた。		●	●	●	●	●		●	●	
	宮下 崇	教育テーマ『都市緑地計画』 【教育内容】 都市緑地の様々な機能、効用について学習し、それがあってわれわれの生活にどれだけの恩恵をもたらしてくれているのかを理解することができた。		●								
	鎌倉 惇	教育テーマ『剪定枝の再利用』 【教育内容】 剪定時に出た枝をゴミとしてではなく、ウッドチップパーを使いチップ状にして、校内のウエルカムガーデンやビオトープなどに敷くことによって、雑草などの抑制効果に利用できることを学ぶ。 校内で出た剪定枝を輪切りにして、いろいろな樹種のキーホルダーを作り、剪定枝の付加価値をつくり利用価値をつける。		●			●				●	

2022環境教育実施報告書一覧表

教科	名前	『テーマ』教育内容	想像力			行動力			理解力		
			思いやり	イメージ	自分ごと	自主性	ムダなくす	人のため	ISO	意見	本質
農業	森川 巧	<p>教育テーマ『伐採木チップの利用及び、ゴミの削減』</p> <p>【教育内容】</p> <p>○環境造園科実習で、木の伐採・枝の剪定を1年間に数回行う。その時に、伐採木・剪定した木が大量に出る。そのままの状態では場所、時間的に限界がある。そこで、木材粉砕機（ウッドチップパー）を使い、木材の体積を10分の1にする事が出来ると共に、原木のままより腐熟時間の短縮をする事が出来る。又、出来たチップの使い道として、木の根元に散布する事により雑草の抑制（マルチング）、腐熟後の堆肥化（有機物）による化学肥料散布量の軽減をする事が出来る。この実習を行うことにより、なぜ木片をチップにするのか？又、チップの活用法を教えることにより、環境についての知識を知ることが出来る。</p>	●							●	
	生川正秋	<p>教育テーマ『生態系の定義と多様な生物のつながり』</p> <p>【教育内容】</p> <p>生態系の定義である、生物群集（全ての生物とそのつながり）と無機的環境（光・水・空気・温度・土など）が、互いに影響しあひながら、永久に物質循環を続けるシステム。について、理解させる。その後、生徒一人一人に「日本の生物」をあげさせ、板書していく。40種類が出たら、食物連鎖で関係するものを線でつないでいく。また、食物連鎖以外にもつながりを持つ生物（営巣・繁殖など）もあげ、つながりの複雑さも認識させる。その後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この生物群集は、生態系として物質循環できるかほとんどの場合、植物が出てこない。分解者である土壌生物も出てこないことが多いことから動かない植物が、生態系を支える重要な生物であることに気付かせる。私たちが目にとまらない生物が、分解者として物質循環に欠かせないことなどに気付かせる。 ・生物のつながりを、線で結んでいくと、黒板中が線だらけになり、何が何だか分からなくなる。そのことから生物群集のつながりあひは、あまりに複雑で、人間の科学では解明できないことを理解させる1種の生物が絶滅しても、どのような生物や無機的環境に変化が出てくるのか「起こって見なければ分からない」こと。日本ではオオカミが絶滅しており、すでに絶たれたラインが沢山あることなどから、環境を守るということは、現状の「全ての生物」と「無機的環境」を守っていくことであることに気付かせ、地球規模での生物群集と無機的環境のつながりあひがないと、生態系という物質循環はうまくまわらないことを理解させる。 		●	●	●		●		●	●
	古市貴之	<p>教育テーマ『これからの環境について考える』</p> <p>【教育内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからの環境について考える 「新しい技術の開発」「自然環境の理解」「環境と調和した社会システム作り」の視点から授業展開 ①木質プラスチックの開発について <ul style="list-style-type: none"> 廃棄プラスチックと木質バイオマスを混合して木質プラスチックを作る技術。プラスチックのみで作るよりも木質バイオマスが基材となり強度が増す、木の質感があるのに腐らない、鉄で作るより軽いなど、代替材となり得るものである。 ②木質バイオマス燃料について <ul style="list-style-type: none"> 化石燃料は、一度使ってしまうと二酸化炭素となり、一方通行の流れになってしまう。木質バイオマス燃料を用いることにより、燃焼により空気中に排出された二酸化炭素がまた森林に吸収される大きなループができるため、持続可能な社会の一役を担うと言われている。 ③太陽光発電について <ul style="list-style-type: none"> 現在日本電力供給の8%を占める発電方法。普及のきっかけとなった固定価格買取制度やメガソーラー、ソーラー普及による課題（20年後の産業廃棄物、景観低下や土砂崩れの危険性）などについて講義した。 	●	●			●				●

2022環境教育実施報告書一覧表

教科	名前	『テーマ』教育内容	想像力			行動力			理解力		
			思いやり	イメージ	自分ごと	自主性	ムダなくす	人のため	ISO	意見	本質
農業	岩崎恵理	<p>教育テーマ『ネイチャークラフト』</p> <p>【教育内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内や四日市周辺から採取したツル、木の実、枝葉を使ってクリスマスリースの作成 木の実の特徴を生かし、葉の色合いを見てデザインを考えて作成しました。 ・文化祭では孟宗竹を使用した滑り台の作成、孟宗竹の強い繊維を利用した弓矢の作成 孟宗竹滑り台では安全に配慮して土台部分は単管パイプを使用、滑る部分や手すりなどは孟宗竹をたくさん使用しました。節の部分はやすりで削り取ってなめらかにし、てみや段ボールを使って滑るようにしました。 弓矢は孟宗竹の強い繊維をいかして強い弓を作ることができました。矢の先端はガムテープを巻いて丸く大きくし、攻撃力が上がらないように注意し、安全に遊べるように配慮しました。 ・文化祭では孟宗竹の力強い生命を感じながら、幅広い利用方法が考えられる孟宗竹を通して小さな子供やお年寄りにも楽しんで遊んでもらえることができました。 									
	辻 泰弘	<p>教育テーマ『フラワーロス』</p> <p>【教育内容】</p> <p>〇〇ロスという言葉が流行っている。特に食品ロスは定期的にニュースで取り上げられるくらい有名である。しかし、花のロスについては、それほど多く取り上げられるものではない。そこで、コンテストの練習などで余ってくる花材などをドライフラワーに加工して、ブーケ・アレンジメント・アクセサリーにして販売を行った。</p> <p>ドライフラワーに関わる加工法については、複数の方法を検証し、短時間で効率よく作ることを目標に研究をしている。</p> <p>農芸祭では、販売だけでなく、フラワーロスに関する紹介も行い、認知度向上を目指して活動を行った。</p>	●	●	●		●			●	
	新美弘毅	<p>教育テーマ『草花が環境保全に果たす役割』</p> <p>【教育内容】</p> <p>草花の授業で、花について学びを深め、植物が環境保全にどのように関わっているのか伝えた。花壇の花は、私たちの心に癒やしを与えてくれるだけでなく、様々な生物が快適に暮らすために必要な空間を創造している。もちろん、草花も光合成をおこない、私たち人間が生きていくために必要な酸素を提供してくれる。植物の果たす役割について、植物に触れながら学習することでより身近なこととして環境問題をとらえたい。</p>						●			●
	深井 悟	<p>教育テーマ『管理実習』</p> <p>【教育内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常の管理のなかで生産物と自然環境の植物の共通点や役割の違いを随時話し意識させるようにした。またプラスチックのような環境負荷を伴う農業資材の是非について環境面や経営面、生産面など多角的なとらえ方ができるように指導するよう心がけた。 ・木工でできた廃材を再利用し多肉植物の鉢を作り寄せ植えに活用し文化祭などで販売した。 		●	●				●		●
	村嶋 賢	<p>教育テーマ『農芸祭の準備』</p> <p>【教育内容】</p> <p>農芸祭で苗の販売を行います。その時の持ち帰り用にプラスチックのトレイや箱 レジ袋を使っている。そこで、箱は実習靴を購入した際の箱をとっておき組み立てて利用し、トレイは生産者さんが使用したものを使用したり、購入者がトレイの返却をしてもらいます。今回は準備のなかで、箱を組み立て、農芸祭の準備を行い、捨てればごみとなるものを再利用することで環境について考える知識が理解できることにみんなが意識付けを心がけていこうと取り組みました。</p>							●	●	

2022環境教育実施報告書一覧表

教科	名 前	『テーマ』教育内容	想像力			行動力			理解力		
			思いやり	イメージ	自分ごと	自主性	ムダなくす	人のため	ISO	意見	本質
養護	出口麻理	<p>教育テーマ『環境に配慮した用紙の再利用と保健室整備』</p> <p>【教育内容】 けがや病気等で生徒が来室した際に記入してもらおう来室用紙や、身体測定記録票、日常的に使用しているメモは失敗や増版してしまった用紙の裏紙を利用し、無駄をなくすよう工夫している。 保健室内の荷物が多いことや設備の都合上、適切な気温や湿度を保ちつつ、効率良く換気を行うことが困難であったため、生徒らと一緒に保健室内の整理整頓を行い、快適な保健室環境づくりに取り組むことができた。</p>			●		●	●		●	
司書	池田ゆかり	<p>教育テーマ『意識し続ける環境問題』</p> <p>【教育内容】 図書館だよりで食品ロスや循環型農業、SDGs関連本を紹介。 『世界の現場から実践SDGs』 『つくろう！SDGsが拓く未来』 『SDGsの英語キーワード300+』 『2030年のフード&アグリテック』 『持続的農業の土づくり』</p>			●	●	●			●	

(8) 防災教育（防災訓練）の実施

① 第1回防災訓練の実施（2022年9月7日）

時間帯		内容						
SHR	8:50-9:00	出席確認 連絡 訓練時の諸注意						
限目	9:06-	地震 火災発生 避難開始						
	9:25	避難完了(グラウンド)雨天時は体育館へ避難						
	9:30-9:45	講 評 学校長 消防署)						
		1年		2年		3年		
		1・2・3組	4・5組	1・2・3組	4・5組	1・2・3組	4・5・6組	
2限目	10:05-10:55	晴	救助袋訓練	クロスロード	クロスロード	消火訓練	起震車訓練	クロスロード
		雨	防災ノート			防災ノート		
3限目	11:05-11:55	晴	クロスロード	救助袋訓練	消火訓練	クロスロード	クロスロード	起震車訓練
		雨		防災ノート	防災ノート			
昼休み		以降 通常						

防災クロスロードゲーム

【講 師】 三重県教育委員会・学校防災 防災アドバイザー
 【実施方法】 各HRへリモート配信

② 第2回防災訓練の実施（2022年12月22日）

	時間帯	1年	2年	3年	生活福祉 2・3年	
SHR	8:50-9:00	出席確認 連絡				
限目	9:05-9:55	包帯法講習	クロスロード (リモート)	クロスロード (リモート)	包帯法講習 (指導)	
2限目	10:05-10:55	クロスロード (リモート)	包帯法講習	防災 LHR 教養型 防災訓練 防災 ノート		
3限目	11:05-11:55	防災 LHR 教養型 防災訓練 防災 ノート	防災 LHR 教養型 防災訓練 防災ノ ート	包帯法講習		
帰りSHR						

防災 LHR

【共通】 教養型防災訓練・・・教室で防災訓練を行いました。(リモートで実施：各HR)

第1部 避難訓練 ①消火訓練 ②避難訓練 ③通報訓練
 第2部 炊き出し訓練 (動画視聴と備蓄米配布)

1年生 「ハイゼックス袋を用いた炊飯方法について」(動画)
 2・3年生 「魔法の調理法 ポリ袋調理を教えます！」(動画)

*農芸産・備蓄米(ハイゼックス米)を全校生へ配布。
 農芸産・備蓄米の配布準備は、事前に生活福祉コース2年生が行いました。



・(各ホームルームで学校備蓄米の意義、
 ハイゼックス米の炊飯方法等を動画で説明後、配布)

【防災ノート】

- 1年生 「学校で大地震が起こったら」「家にいるときに大地震が起こったら」
- 2年生 「台風が近づいてきたら」「突然 風水害が起こったら」
- 3年生 「避難所で生活することになったら」「災害時のボランティア活動」

防災クロスロードゲーム

【講 師】 三重県教育委員会・学校防災 防災アドバイザー

【実施方法】 9月防災訓練と同様の方法・・・各HRへリモート配信

包帯法講習

*救急法講習：『三角巾包帯法訓練』（2011年より12年目）

3年ぶりに全校生を対象に学年別を実施しました。

1年生は全員、三角巾を一人一枚購入、3年間在籍中は三角巾を常に携帯し緊急時に備える。
包帯法訓練の指導は、生活福祉コース2. 3年生(全員赤十字救急法救急員)が行う。

職員防災研修

【内 容】 12月22日(木)実施の防災LHR(教養型防災訓練)と同内容。

【実施期間】 11月28日(月)～12月15日(木)までの期間に各自受講する。

【実施方法】

- ・「第1部1～3」については、印刷したプリントに記入しながら動画を視聴する。
- ・「第2部」の炊き出し訓練については、「1年生用」「2・3年生用」どちらかを必ず視聴してもらい終了後、アンケート(フォームで感想)に答える。

6. 環境コミュニケーションの推進

(1) 『みえ環境フェア2022』への出展 (2022年12月11日 メッセウイング・みえ(津市))

三重県における地球温暖化防止対策を一層推進するため、県民をはじめNPO、企業、三重県、市町学校等が取り組む地球温暖化防止活動や環境保全活動を紹介し、また、出展者相互の交流を図る場として『COOL CHOICE:カーボンニュートラルの実現に向けて、未来のために、今選ぼう!!』をテーマに開催されました。

本校の今までのISOの取り組みと環境教育や教育活動を中心に、生徒たちの実習成果による作品の展示、パネル展示、学校紹介を行いました。農業クラブ・家庭クラブ生徒による展示ブースでの案内
(2010年より10年連続、2020.21と中止のため今回で11回目の出展)

また、農業クラブ・家庭クラブの生徒たちが、販売ブースにおいて実習製品・農産物の販売を行いました。
(2015年より5年連続、2020.21と中止のため今回で6回目)

今年度は、ステージイベント『環境トーク』に農業クラブと家庭クラブの生徒が四日市農芸高校代表として参加。環境活動の紹介や大学生や他校の生徒と交流を深めました。



来場者 約4,500名 出展団体 61団体 (主催:三重県地球温暖化防止活動推進センター)

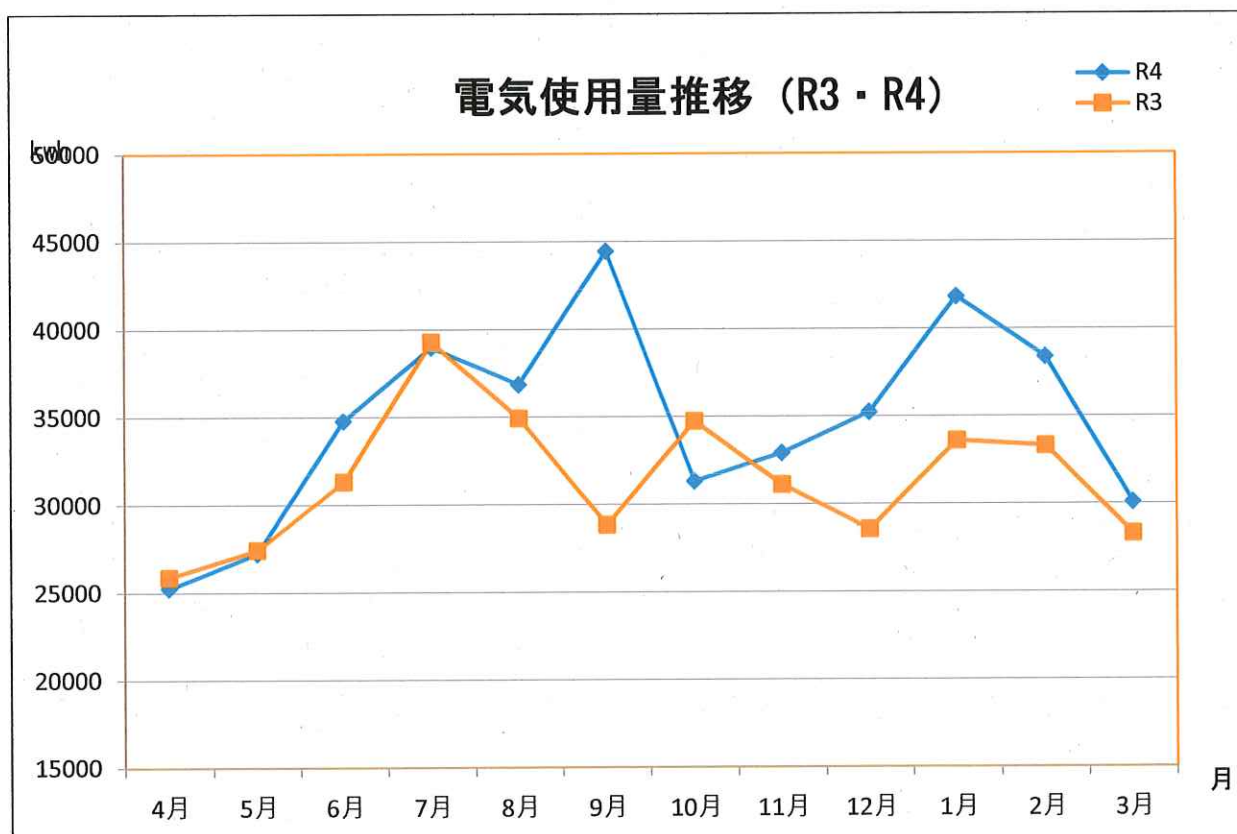
7. 環境汚染の予防と環境保護の取り組みについて

電気使用量の推移 (R3 - R4)

令和4年度目標：前年比3%削減

単位：kwh

	令和3年度	令和4年度	前年比
4月	25,890	25,257	-2.4%
5月	27,436	27,236	-0.7%
6月	31,317	34,791	11.1%
7月	39,299	38,981	-0.8%
8月	34,942	36,855	5.5% 夏季休
9月	28,851	44,452	54.1% R3臨時休校
10月	34,754	31,324	-9.9% 10月～最終保障供給契約
11月	31,122	32,922	5.8%
12月	28,568	35,254	23.4%
1月	33,622	41,824	24.4%
2月	33,323	38,388	15.2%
3月	28,310	30,094	6.3%
計	377,434	417,378	10.6%

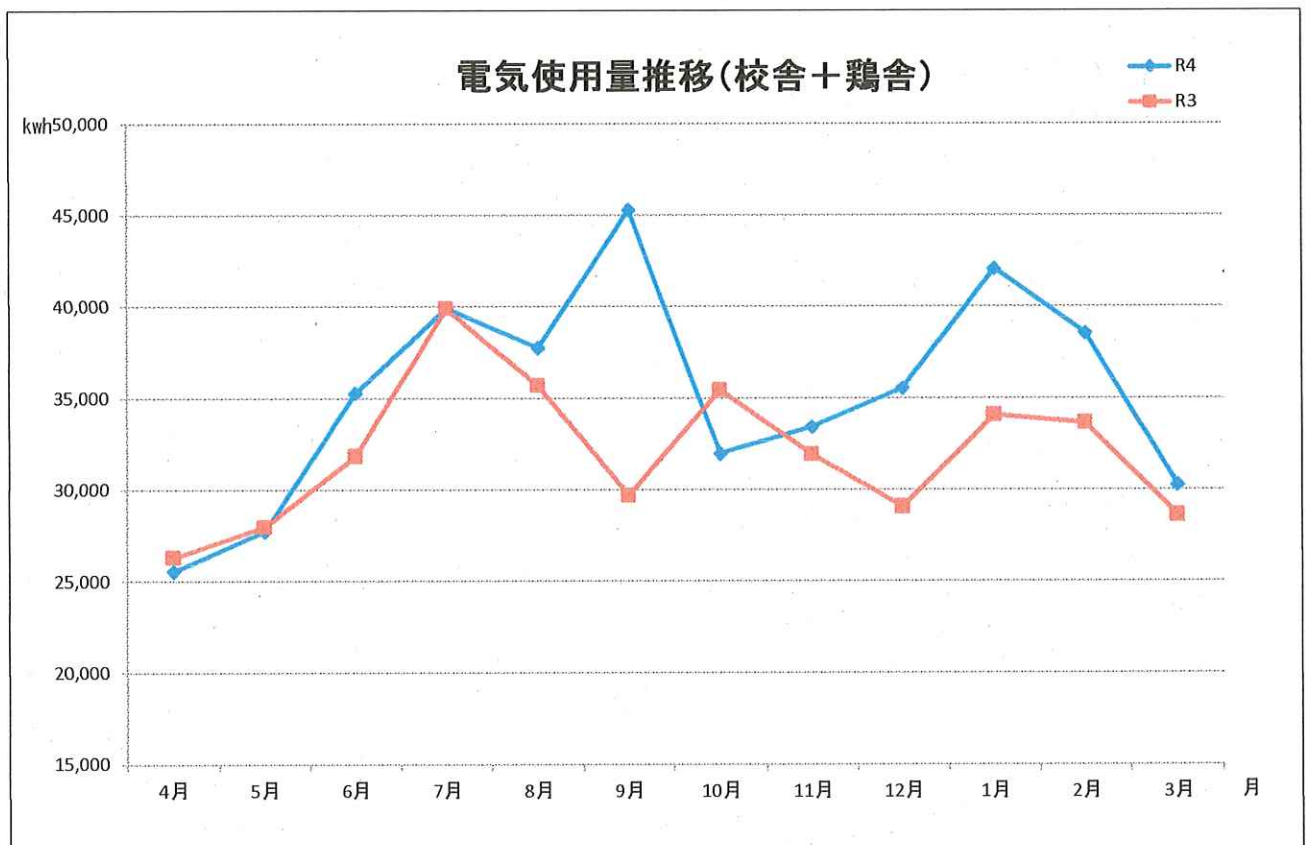


【参考】校舎+鶏舎 電気使用量の推移

単位：kwh

	令和3年度			令和4年度			【参考値】 前年比
	鶏舎		【参考値】 校舎+鶏舎	鶏舎		【参考値】 校舎+鶏舎	
	従量電灯C	低圧電力		従量電灯C	低圧電力		
4月	315	128	26,333	273	42	25,572	-2.9%
5月	400	154	27,990	401	128	27,765	-0.8%
6月	350	177	31,844	378	120	35,289	10.8%
7月	438	176	39,913	822	150	39,953	0.1%
8月	611	132	35,685	781	135	37,771	5.8%
9月	648	190	29,689	739	125	45,316	52.6%
10月	622	92	35,468	523	150	31,997	-9.8%
11月	676	148	31,946	512	32	33,466	4.8%
12月	495	27	29,090	304	18	35,576	22.3%
1月	453	15	34,090	241	16	42,081	23.4%
2月	326	18	33,667	182	4	38,574	14.6%
3月	296	23	28,629	189	5	30,288	5.8%
計	5630	1280	384,344	5345	925	423,648	10.2%

夏季休
R3臨時休校



水道使用量の推移 (R3・R4)

単位：m³

	令和3年度	令和4年度
4月・5月	1,370	1,104
6月・7月	1,691	1,319
8月・9月	1,484	1,097
10月・11月	1,068	1,196
12月・1月	1,182	1,215
2月・3月	1,107	1,059
計	7,902	6,990

前年比

-19.4%

-22.0%

-26.1%

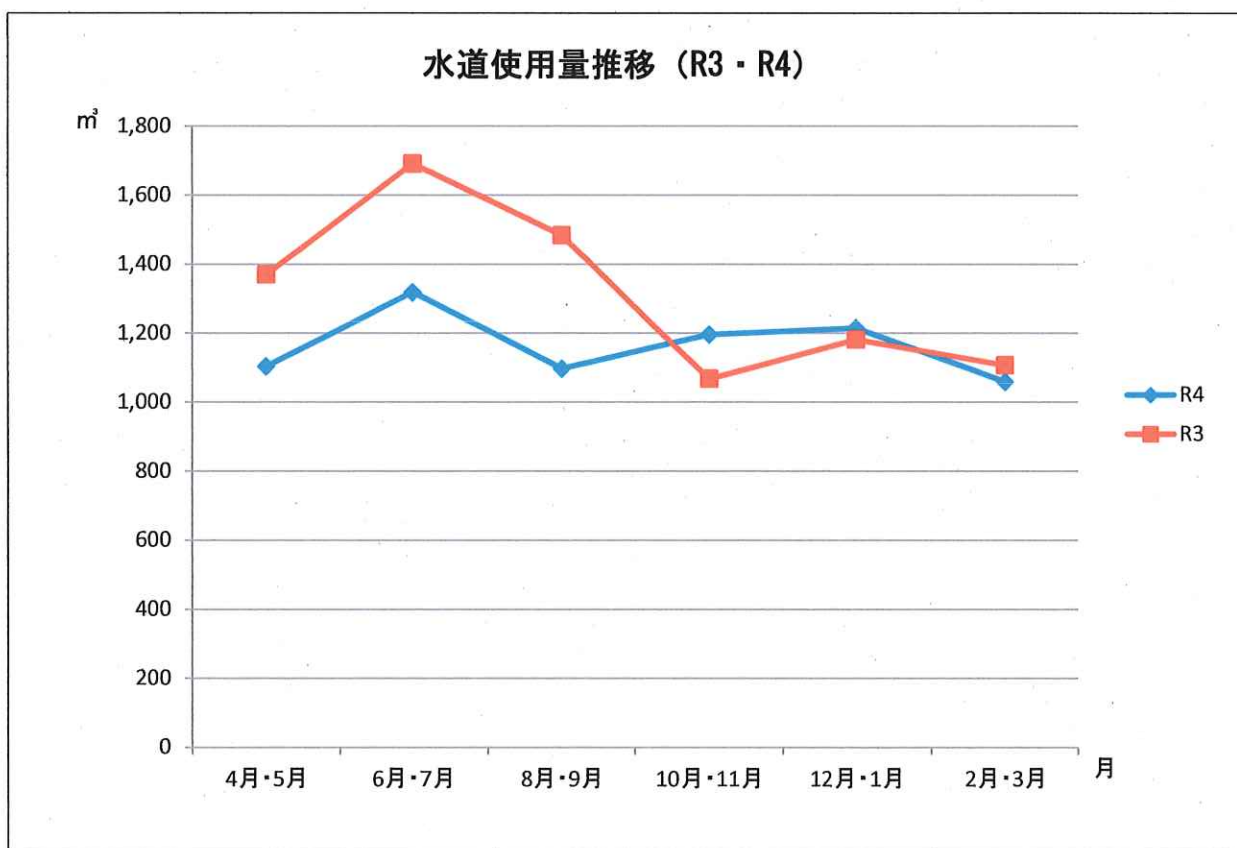
12.0% R3休校分含む

2.8%

-4.3%

-11.5%

参考	
令和2年度	平成31(令和元)年度
669	1,022
970	1,439
1,462	1,456
1,575	2,444
1,487	2,125
1,381	1,191
7,544	9,677



8. 【環境マネジメントシステム】2022年度環境目標達成度一覧(まとめ)

2023年3月31日

環境方針		環境目標	取組みの計画 実施事項	達成度 (年度末のまとめ)
環境教育の 推進	1	環境教育を通して、 生徒に「想像力」「行動力」 「理解力」の3つの力をつける	①各教科等での環境教育 ②環境週間 ③環境月間 ④地域とのコミュニケーション活動 ⑤防災教育(防災訓練)	各部門で、実施計画に基づき年間を通して環境教育が実施された。 6/6～10.に実施。生徒環境委員会によるポスターの作成・掲示、清掃状況のチェックを実施。 学校環境デー(地域の清掃活動)は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。 10/24～11/21.に実施。生徒環境委員会によるポスターの作成・掲示、清掃状況のチェックを実施。 全教職員が環境教育に取り組み、環境教育実施報告書が提出された。 コロナ禍において制限等の中、家庭学科・農業学科の各コースやクラブ活動において、可能な限りの中で地域との連携、コミュニケーション活動が実施された。 (1)9/7.第1回防災訓練：全校避難訓練。その後、1年生・救助袋訓練、2年生・消火訓練、3年生・起震車訓練。各HRリモートにより防災クросロロードゲームを実施しました。 (2)12/22.第2回防災訓練：各学年別に各クラスにて教養型防災訓練・防災LHRの実施。吹き出し用パズル の全米の全生徒への配布。3年ぶり全生徒学年別救急法(三角巾包帯法)訓練を実施。全生徒徒への三角巾 配備(12年目)、緊急時に対応できるように備える。
	2	節電の 節電の啓発活動を実行する	①節電型電球の100%利用の推進 ②節電のための啓発活動の実施	グリーン購入比率100%。環境週間及び環境月間を中心に生徒環境委員会主導の啓発活動を行う。 電気使用量：前年度比10.6%の増加となった。(※昨年度9月は、新型コロナウイルスにより臨時休校)
	3	節水の 節水の啓発活動を実行する	節水(不要な水を出さない)取組みの ための啓発活動の実施	環境週間及環境月間を中心に生徒環境委員会主導の啓発活動を行う。 水道使用量：前年度比-11.5%の削減となった。
	4	紙使用量の減量化と分別処に よる紙の再利用化を推進する		紙使用量の減量化と両面使用によるリサイクル化及び分別処理に努めた。
	5	環境コミュニケーションの推進 「環境意識の向上と環境 コミュニケーション活動を推進する」	①職員研修の実施 ②校外外への 環境コミュニケーション活動の推進	4/5.新着者対象の説明会を実施。6/1.職員会議において全職員へ今年度の取り組みを周知。 ・『みえ環境フェア2022』に出展。展示…学校紹介、環境教育活動の紹介及び販売。 …家庭クラブ、農業クラブの役員生徒と生徒実習作品・農産物の販売を行い、情報発信を実施する。 …サブイベント『環境トーク』へ代表生徒が出演。環境活動の紹介や他団体との交流を深める。 『環境報告書2022』を2023年5月に発行。
開かれた 学校		③ 環境報告書の発行		

生徒向け 学校教育アンケート調査の結果 (2022年度末実施)

Q. 環境問題への関心が高まり、環境保護への気持ちがある

	1.そう思う	2.ややそう思う	1.2.合計
1年生	44.0%	47.0%	91.0%
2年生	34.0%	56.0%	90.0%
3年生	50.0%	44.0%	94.0%

Q. 本校は、環境教育の取組みができている

	1.そう思う	2.ややそう思う	1.2.合計
1年生	54.0%	42.0%	96.0%
2年生	38.0%	55.0%	93.0%
3年生	55.0%	40.0%	95.0%

Q. 地域との交流が勉強になっている

	1.そう思う	2.ややそう思う	1.2.合計
1年生	37.0%	51.0%	88.0%
2年生	25.0%	54.0%	79.0%
3年生	35.0%	46.0%	81.0%

保護者アンケート調査の結果 (2022年度末実施)

Q. 環境教育に積極的に取り組んでいる

	1.そう思う	2.ややそう思う	1.2.合計
保護者	36.0%	47.0%	83.0%

Q. 地域との交流活動を積極的におこなっている。

	1.そう思う	2.ややそう思う	1.2.合計
保護者	43.0%	42.0%	85.0%

2022年度 環境報告書

2023年 5月 1日 発行

編集： 三重県立四日市農芸高等学校

環境美化委員会